

先生の元で実験をさせて頂き研究活動を継続する事ができました。昨年の春に目白大学を退職し、今は、中部大学で水村先生の元で研究を続けています。目白大学在職時はレポート添削という名の精神修行？に追われていましたが、今は停滞していた研究に力を入れて、今までの研究成果をお蔵

入りさせないように頑張っています。この場をお借りして、今まで支援をして下さっている水村先生、照井先生、共同研究者、研究室の皆様から御礼申し上げます。また拙い文章でしたが、最後までお読みいただきありがとうございました。



古いサーチコイル

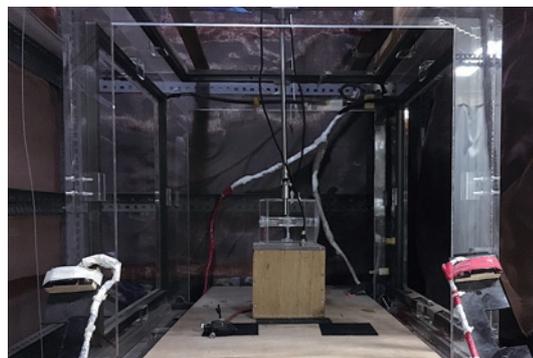
鳥取大学医学部適応生理学分野

松尾 聡

はじめまして。信州大学バイオメディカル研究所の安嶋久美子先生からバトンを受けました、松尾と申します。私は現在、河合康明教授のもと鳥取大学医学部適応生理学分野で仕事をしております。安嶋先生、ありがとうございました。バトンを受ける際にいただいた、研究生活の雑感というキーワードに基づき、記していこうと思います。

私の机は研究室の窓際にあり、窓からは大山(だいせん)と読みます)が見えます。大山隠岐国立公園の中の独立峰で、中国地方の最高峰でもあります。日本百景にも選定される美しい山ですが、残念ながら窓からは焼却場の煙突と大学病院の病棟が邪魔をして、全貌が見えません。この原稿用に写真を撮ってみようと思いましたが、生憎曇っていて大山が全く見えませんでした。山陰地方は冬の日照時間が少ないのです。

そこで窓を通した景色はあきらめ、実験室の椅子に座って写真を撮りました(図)。写真の真ん中にあるステンレスの棒を取り囲む、立方体の枠はサーチコイルです。私の仕事の一つは頭部・眼球協調運動に関連したものですが、このサーチコイルは1990年代に作られた年代物の機械で、今も頭部運動と眼球運動をモニターするために働いています。大学院で指導を受けた故中尾召三教授が導入されたもので、このサーチコイルを見ると大学院生の頃を思い出します。耳鼻咽喉科で臨床に携わっていたおり前庭に興味を持ち、生理学教室の



大学院に入りました。中尾先生は眼球運動の発現機構について、主に慢性動物を用いて研究をされておりました。当時私の実験は急性実験が中心でした。先生は色々心配されてたと思いますが、ずっと私の実験に付き合ってくださいました。私が手術を行い、実験が始まるころになるとおいでになり、実験のこと、家族のこと、生活のこと、いろいろな話やアドバイスをいただきました。実験に対しては真摯な態度でしたが、とても優しい、温厚な人柄で、とても居心地がよかった記憶があります。実験では厳しい言葉をいただきましたが、大学院の生活は楽しい充実した生活でした。当時何が楽しかったのだろうと考え、一つのポイントは様々な方との交流だったと思います。私は本来内向的な人間ですが、中尾先生の研究交流に参加することで、その恩恵にあずかることができ

ました。これらの恩恵を学生に伝えていけたらと今は強く思います。思い出話になってしまいましたが、いろいろ教えていただいた先生方そして研究の機会を与えていただいた先生方に感謝しつつ、「雑感」はこの辺で切り上げ次の先生にバトンを渡したいと思います。

ちなみに当地は冬の日照時間は短いですですがスキーができます。さらに5~8月の山陰地方の日照時間は、他の地域と比べても短いわけではありません。近くにある皆生海水浴場は、この期間は賑わっておりますので、機会がありましたらぜひお越しください。